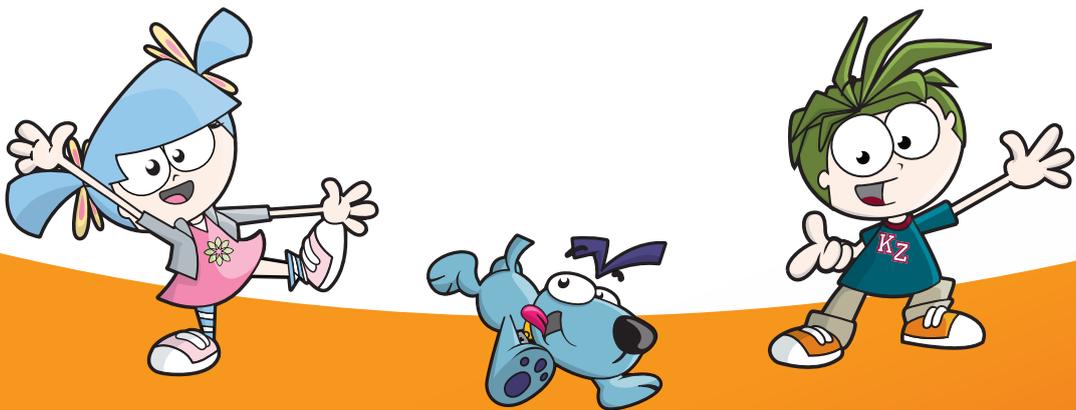


Get Ready for a Better World 

KidZania SDGs

ガイド

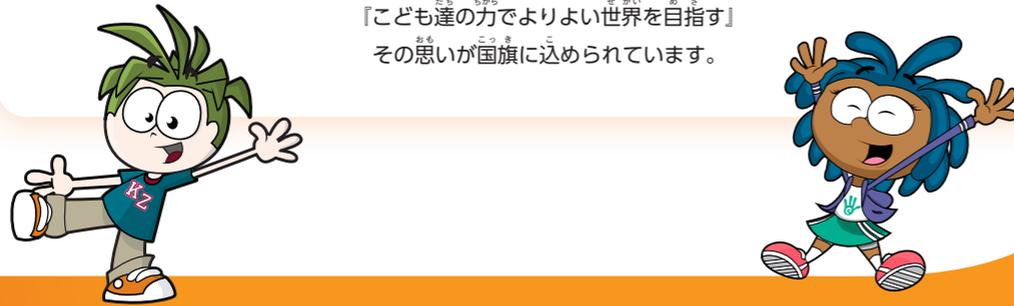

Japan





こどもが主役の国・キッザニア 国旗に込められた思いとは？

キッザニアの国旗の「オレンジ」は、大人たちが解決しようとしな問題を示し、「赤」はその問題をこども達が解決し、世界をよりよくしたいという信念を表しています。そして、国旗の中央に白く描かれたKidZania (キッザニア) の「K」の文字は、世界中のこども達の新たな希望と純粋な精神を表しています。『こども達の方でよりよい世界を目指す』その思いが国旗に込められています。



Get Ready for a Better World KidZania SDGs ガイド

よりよい世界に向かって、SDGsとともに歩いていこう

名前がよく耳にするけれど、自分にとっては遠い存在。SDGsについて、そう感じている人も多いかもしれません。しかし、地球上すべての人がよりよく生きられる世界を目指すSDGsは、誰にとっても「自分ごと」。その17のゴールや169のターゲットを見て、自分と関係のある項目が1つもない、という人はいないはず。もし、みなさんが自分の未来へ向かって歩くとときに、「どんな大人になりたいか」や「何のために働くのか」といった問いにぶつかったとしても、心の中に道しるべとして「SDGs」を抱いていたなら、迷わずに、しっかりと前を向いて進むことができるのではないのでしょうか。これは、SDGsとともに自分の未来を歩いていくみなさんのためのガイドです。



2030年までによりよい世界を目指す

SDGsとは？

2015年9月の国連サミットで採択されたSDGsは「Sustainable Development Goals」の略称で、日本語にすると「持続可能な開発目標」になります。「誰も置き去りにしない」という理念のもと、世界が解決すべき社会課題が17の「ゴール」として掲げられ、さらに、それらのゴールを実現するための具体的な目標が169の「ターゲット」として定められています。2030年までに達成することを目指し、今、世界中が取り組んでいる目標です。

SDGs 好奇心のタネ

みなさんはどのゴールが気になりますか？

SDGsに取り組もう！と思っても、いきなりすべてのゴールに向き合うのはとても難しいものです。まずは、「自分が気になるゴール」を1つ選び、その中に「好奇心のタネ」を見つけて、いろいろと調べてみましょう。

<p>1 貧困をなくそう</p> <p>日本に貧困の問題はある？</p>	<p>2 飢餓をゼロに</p> <p>なぜ食べ物が足りない国があるの？</p>	<p>3 すべての人に健康と福祉を</p> <p>「ヤングケアラー」という言葉聞いたことある？</p>
---	--	--

<p>4 質の高い教育をみんなに</p> <p>日本に暮らすこども達はみんな学校に通っている？</p>	<p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>日本の女性国会議員は全体の何%？</p>	<p>6 安全な水とトイレを世界中に</p> <p>世界のトイレ事情はどうなっている？</p>
<p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p> <p>エネルギーにはどんな種類がある？</p>	<p>8 働きがいも経済成長も</p> <p>「働きがい」って何だろう？</p>	<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p> <p>困っている人を助ける技術って何だろう？</p>
<p>10 人や国の不平等をなくそう</p> <p>「平等」ってどういう状態のこと？</p>	<p>11 住み続けられるまちづくりを</p> <p>「安全な街」には何が必要？</p>	<p>12 つくる責任つかう責任</p> <p>エシカル消費って知ってる？</p>
<p>13 気候変動に具体的な対策を</p> <p>各国はどんな対策をしているのかな？</p>	<p>14 海の豊かさを守ろう</p> <p>世界中で魚はどれくらい食べられている？</p>	<p>15 陸の豊かさを守ろう</p> <p>森や生きものは減っているの？</p>
<p>16 平和と公正をすべての人に</p> <p>なぜ戦争は起きるの？</p>	<p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p> <p>身近な人たちと「チームSDGs」をつくってみよう！</p>	



地球の未来に影響する課題について 世界の動きをチェックしよう

SDGsのことを知る第一歩として、目を向けてみてほしいのが地球の未来を揺るがすほどの大きな課題。今、世界が一丸となって取り組み、次々と新しい動きが起こっているの、常にチェックしておきましょう。



資源を守り、経済を強化する 「循環する社会」がスタート

地球の資源は、無限ではありません。一方、これまでの社会は資源を大量に使ってモノをつくり、大量に廃棄物を出してきました。廃棄物は、最終的には陸地や海に埋め立てられますが、限界も見えています。今までの「ゴミはすてるもの」という常識は変わりつつあるのです。

注目のキーワード

サーキュラー・エコノミー



今、時代が求めているのは「ゴミは資源」という新しい考え。きっかけは、2015年にEU(ヨーロッパ連合)が政策としてあげた「サーキュラー・エコノミー(循環経済)」でした。それは、廃棄物ゼロを目指すために「資源の循環」と「経済の成長」を両立させたシステム。企業は製品をつくる時に、使われている資源の回収や再利用まで考えることが求められます。また、その仕組みづくりによって新たなビジネスなどが生まれれば、経済効果も期待できます。この「循環する社会」へのシフトが、今、世界各地で始まっています。

“キツァニアがある国”で見つけた

世界のサーキュラー・エコノミー事情

EUの政策をもとに、サーキュラー・エコノミーの取り組みが広がるヨーロッパ諸国。近年は南米、東南アジアなど、ほかの地域にもその動きは拡大しています。ここでは“キツァニアがある国”の状況を少し調査してみました。

イギリス

EUから離脱したイギリスも、2020年7月、EUの政策を導入することに。2035年までに一般廃棄物は65%をリサイクルし、埋め立ては廃棄物の10%までとする目標を掲げています。

インドネシア

2020年2月、デンマークの支援を受け、サーキュラー・エコノミーを推進する「イニシアチブ」の創設を発表。東南アジア初のサーキュラー・エコノミーを国家戦略とした国になりました。

* 戦略を立て、実行していく機関のこと

日本

2020年5月、政府は「循環経済ビジョン2020」を策定。今後の循環経済政策における基本的な方向性をまとめました。

チリ

2020年1月、政府がサーキュラー・エコノミーのロードマップを策定。18のチャレンジを掲げ、プラスチックごみが環境へ与える影響を削減することを目指しています。

● 現在、キツァニアがあるのは世界17カ国25カ所(2021年12月現在)。今後も複数のオープン予定があります

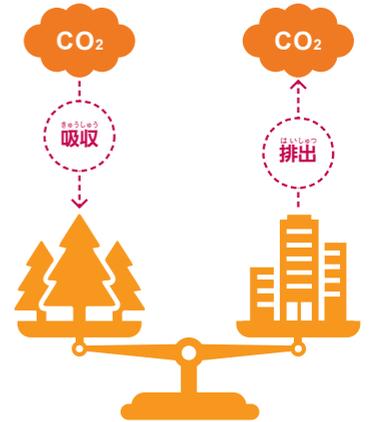
“脱炭素社会の実現”で解決を目指す 待ったなし! の大問題「地球温暖化」

毎日、私たちが電気やガスを使えるのは、多くの場合、石油や石炭、天然ガスなどの化石燃料を燃やしてできたエネルギーのおかげです。しかし、燃料を燃やすときに生じた温室効果ガス(主に二酸化炭素:CO₂)は大気圏に溜まり、地球温暖化を引き起こしました。猛暑や豪雨、海面上昇など、世界中で大きな問題が発生しています。

注目のキーワード

カーボンニュートラル

2020年、日本政府は「2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする」と発表しました。それこそが「カーボンニュートラル(脱炭素)」です。その実現に向けては、当然、排出量を大幅に減らすことが重要ですが、たとえばCO₂を植物に吸収してもらおう、あるいは地中に埋めるといった対策も同時に進めていきます。2050年までにいかにCO₂を減らせるか、そこに地球の未来がかかっているのかもしれない。



SDGsに取り組む現場へ 三井不動産(株)

目指せ2030年のグリーン電力化!

カーボンニュートラルは、すべての人々が協力して達成すべきテーマ。三井不動産ではグループビジョンに「&EARTH」を掲げ、これまでもエネルギー消費や温室効果ガス排出量の少ない街や施設をつくり、環境負荷の低いサービスや施設運営を実践してきましたが、再生可能エネルギー関連の取り組みとして、2030年度までに所有施設の共用部の電力をグリーン化することを宣言。この取り組みによるCO₂削減効果は約12万3,000トン。一般家庭の約6万9,000世帯分に相当。さらに希望されるテナント企業などへ向けて、それぞれの進め方に合わせてオーダーメイドで計画できる「グリーン電力提供サービス」を2021年4月よりスタート。計画を進める上でポイントとなったのは「ルール」と「安定的な量」。ルールとは、今までは1つの施設に電気は1種類のみ、というのが原則でしたが、NPO団体と連携し国際基準

三井アウトレットパーク 木更津は“環境共生型アウトレットモール” 壁面緑化や太陽光パネルの設置などに取り組んでいます



「RE100」*に適合する契約ルールを創出。部分的なグリーン電力化を可能とし、あわせて量については電力会社との連携により解決。このような環境への取り組みは、次の世代へバトンを引き継ぐことだと考えているという三井不動産。今の最善と思えることを進めながら、次世代につながる技術や仕組みを活かし、よりよいやり方を、未来を担うみなさんの手でつくってほしいと期待しているそうです。

* 企業が自らの事業の使用電力を「100%再生可能エネルギーでまかなうこと」を目指した国際的イニシアチブ

自分の未来にも関わりのある「働く」にまつわる話題に注目しよう

2030年にSDGsがゴールを迎えたら、今とは少し違う世の中になっているかもしれません。その頃、社会に出て、仕事をするようになるみなさんは、今のうちから「働く」にまつわる話題に注目しておくのがオススメです。

誰でも手に入れられるわけではない？「人間らしく働く」ということ

世界には、小学校に行かずに働いている子どもが1億6,000万人*もいます。そんな「児童労働」の主な原因は、貧困です。学ぶ機会がなく、文字が読めない子どもは大人になってもやりたい仕事につくのが難しいという悪循環もあり、働いた分に見合うだけの幸せはなかなか訪れません。

*ユニセフと国際労働機関(ILO)による報告書「児童労働：2020年の世界推計、傾向と今後の課題」より

注目のキーワード

ディーセント・ワーク

SDGsのゴール8が掲げる「ディーセント・ワーク」とは、「働きがいのある、人間らしい仕事」のこと。児童労働はもちろん、残業が多くて休みがない、給料が安いなど、自分が望んでいない状態で仕事をしている人が大勢います。年齢や性別、障がいの有無に関わらず、すべての人にとって働きやすい環境になれば社会は安定。生産性も高まり、持続可能な経済成長へとつながっていきます。



Decent Work



注目のキーワード

CSR / CSV

企業の魅力を知る指標としてほしいのが「CSR」や「CSV」。CSRとは「企業の社会的責任」のことです。たとえば、環境対策から、地域への貢献、従業員の権利を守るといったことまで、会社のビジネスとは別に行う社会活動のことを指します。一方、CSVは「共通価値の創造」。例としては「生産者を支援しながら、買う人にも喜ばれるような商品を作ること」などがあげられますが、そうすることで企業の価値を上げることにつながります。

- C Corporate 企業
- S Social 社会
- R Responsibility 責任

- C Creating 創造
- S Shared 共通
- V Value 価値

SDGsとともに広まる新しい動き「会社」は利益を増やすだけではダメ？

最近では、大学生が就職先を選ぶときに、「会社がどれだけ利益を上げているのか」だけではなく「企業の良心」も基準にすることが多いといわれています。世界がたくさんの課題を抱える時代に、自分たちの利益だけを追求する会社は、将来性が見込めないと考えられてしまう傾向にあるのです。



SDGsに取り組む現場へ KDDI(株) / (株)KDDIチャレンジド



まずはチャレンジ! 働きがいのある仕事をより多くの人へ

使わなくなった携帯電話やスマートフォンの素材を再び資源として活用するためには、分解するときに細かな仕分け作業が必要となります。KDDIは、KDDIチャレンジドと協力をして、その作業を障がいのある方に担っていただくことで、働きがいのある仕事を生み出すことができました。



障がいのある方による作業を一部取り入れるなどして、99.8%の再資源化率を達成しています。当初、この取り組みを実施するにあたり、KDDIチャレンジドでは、成功への不安もあったといいます。しかし、実際に始めてみると、働いている方の丁寧な作業を通じて「大丈夫!」ということがわかりました。また、社会には障がいのある方に対して、失敗をさせないようにしようとする「残念な配慮」があることも見えてきました。まず「できないかも」という不安で立ちすくむのではなく、「とりあえずやってみる」という姿勢でチャレンジすること、そしてそれを応援する社会へと転換していくことが求められているのです。「やりたいと思う気持ちを大切に。少しでも可能性があるなら、まずチャレンジ! 工夫して、自分なりのやり方を見つけてみよう!」というメッセージがこの取り組みを通じて発信されています。

SDGsに取り組む現場へ キzzaニア



パートナーシップで育まれるキzzaニアの体験

キzzaニアは、「子ども達の「社会をよりよくしよう」とする気持ちと、企業の「体験を通じて、子ども達の未来を応援したい」というCSRおよびCSVとが、一緒になってつくり上げられた場所です。多くのスポンサー企業の支援により、東京と甲子園の各施設では約100種類ものリアルな職業・社会体験をすることが可能となっています。キzzaニアでは、多様な体験を通じて、みなさんに未来のキャリアを考えてもらうとともに、体験を提供している企業が何を次世代に伝えようとしているのかを探求してほしいと願っています。そして、スポンサー企業や国などと一体になり、子ども達に学びの場を提供することで、SDGsのゴール4「質の高い教育をみんなに」と、ゴール17「パートナーシップで目標を達成しよう」に貢献することを目指しています。



(左) キzzaニアでは、学校団体へ向けた「キャリア教育実践プログラム」など事前・事後学習のツールを制作しています
(右) 施設の外へ飛び出し、よりリアルな体験を追求した「Out of KidZania」も実施しています。2018年10月には、国土交通省関東地方整備局「洪水から街を守る仕事体験 in 荒川」と題し、水防災の普及啓発を目的に、災害対策室で水害がせまったときの国土交通省の仕事を現地で体験するプログラムを行いました

好奇心のアンテナにピン!とくる 「未来のヒント」を集めよう

SDGsを通じて世の中を見ると、自分の進むべき道を選ぶときに役立つ「未来のヒント」が見つかります。これから大人になるまでに、できるだけたくさんの未来のヒントを集めておきましょうか？

想像してみよう 大人になった自分も働き支えていく 「未来社会」のこと

未来のヒントとして「未来社会を想像できる話題」を集め、時代の行く先をとらえておくのもオススメです。新しい話題と出会うたび、1つずつノートに書き溜めていきましょう。



地球温暖化に挑む技術「人工光合成」

植物は太陽光を利用して、空気中のCO₂と水からブドウ糖と酸素をつくり出す「光合成」を行っています。つまり、光合成は太陽光の力だけで、地球温暖化の一因であるCO₂を減らすことができる夢のようなシステムです。そこで、今、「人工光合成」の技術開発が進行中。やがて実用化することができれば、私たちの未来にとって嬉しい技術となります。

「代替肉」はこれから急拡大の予測あり

「代替肉」とは、牛肉や鶏肉、豚肉などの食用肉に代わる食品のこと。大豆ミートをはじめ、その多くが植物性の素材でつくられています。代替肉が普及するメリットはいくつかありますが、1つは地球温暖化対策です。世界の畜産業界の温室効果ガス排出量は、地球全体の14.5%も占めているためです。ほかにも、人口増加による食糧危機、動物の肉を食べられない人のタンパク質不足といった課題も解消。本物の肉に近い味わいも人気が高く、今後の市場拡大が見込まれています。
*国際連合食糧農業機関(FAO)の2013年報告書より

自分の代わりに「分身」を動かす時代に

今、ネットワーク上の仮想空間で操作できる自分の分身「アバター」を、現実世界でも活用する動きが加速しています。たとえば、家にながら買い物や観光が楽しめたり、遠くにある病院の診察を受けられたり、人々の暮らしにイノベーションをもたらす技術です。また、高齢者や障がいのある人の身体的な制限を自由にし、もしかしら今後には自分の好きな仕事を始められる人なども出てくるかもしれません。

国際デー (一部を抜粋)

1/24	教育の国際デー
3/3	世界野生生物の日
4/21	創造性とイノベーションの世界デー
6/20	世界難民の日
8/9	世界の先住民の国際デー
9/7	青空のためのきれいな空気の国際デー
9/29	食料のロスと廃棄に関する啓発の国際デー
10/11	国際ガールズ・デー
11/20	世界子どもの日
12/27	国際疫病対策の日

*国際デーの一覧は「国際連合広報センター」のWEBサイトに掲載されています



自分らしい仕事を見つけた 一歩先を歩く、先輩からのメッセージ

(株)BIG EYE COMPANY CEO* 大塚 桃奈さん



「対話」を通じて ゼロ・ウェイストの実現を目指しています

徳島県・上勝町では、ゴミのない社会を目指し、ゼロ・ウェイスト活動を行っています。その町で、私は「上勝町ゼロ・ウェイストセンター」という公共施設の運営に携わっています。この施設にはホテルなどもあり、訪れてくださった方々にゼロ・ウェイスト体験を提供すると同時に、世界中の人たちへ向けて、活動の発信もしています。実は、私は小さい頃はファッションデザイナーに憧れていました。しかし、洋服の生産や廃棄にはさまざまな問題があることを知り、環境やリサイクルに興味を覚えました。また、海外で学んだことで視野が広がり、環境問題に実際にチャレンジしてみたいと思うようになりました。その結果、現在の仕事に出会い、首都圏から上勝町に移住してゼロ・ウェイストに取り組んでいます。ゴミをゼロにする活動は1人1人の理解と協力がないと成り立ちません。しかし、人それぞれ、立場や考え方、感じ方などが違うので、私は「対話」をすることを大事にしています。お互いを理解することで、みんなが納得する活動ができると思っています。これから大人になるみなさんへのメッセージは「Be curious!」自分の好奇心を尊重し、一歩踏み出して!必ずチャンスにつながるから!」です。

*Chief Environmental Officer

(株)Crono 代表取締役 高 瀛龍さん



生まれ育った環境によって、 やりたいことができない人を助けたい

「お金の問題」でやりたいことができない人がいることは、大きな社会的損失だと思います。サッカークラブに通いたい、バイオリンを習いたい、塾に行きたい、海外で学びたいなど、本当はやりたいことがあるけれど、お金がないからできないというのはすごく辛いことです。私も自身も大学時代、留学やインターンシップなど、もっとチャレンジしたいことがありましたが、お金が理由で断念しました。それが、私が起業することになったきっかけです。実は、「お金の問題」を解決する方法は、世の中たくさんあります。その1つが奨学金です。国や大学、財団、企業が、1万制度以上の「奨学金」を提供しているのです。そんなにあるの!とびっくりした人も多いと思いますが、たくさんありすぎてわかりづらいということがあり、必要な人に情報がなかなか届いていません。そこで、私の会社「Crono」では「My奨学金」を運営しています。自分が応募できる奨学金情報を、誰でもわかりやすく知ることができるサービスです。キッズニアを訪れたみなさんは、職業体験を楽しんでワクワクしたのではないかと思いますが、もっとやってみたい、もっと知りたいという好奇心、チャレンジする心を、大人になってもぜひ大切に持ち続けていってください。

世界の子ども達から届いた SDGs達成のためのアイデアを見てみよう

世界各地に展開しているキツザニア。2020年9月、メキシコにあるキツザニアの「中央政府」が「SDGs達成に向けて何ができるか」という問いを発信し、世界中の子ども達から手紙が届きました。内容をほんの少しだけご紹介するので、これを参考に、キツザニアの問いに対する自分なりの答えを考えてみませんか？



ペルーからの手紙

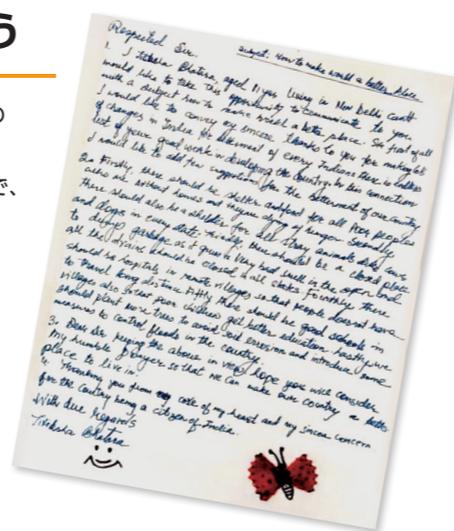
南米・ペルーから届いた手紙には、環境の問題に目を向け、子どもも大人もみんなでSDGsについて考えよう！という願いが込められていました。

プラスチック製品の消費量を減らそう

これからの時代を生きる子ども達に悪い影響を残さない取り組みをしていきたい！

大人も一緒にSDGsについて考え行動しよう

子どもが夢をかなえようとするのと同じように、大人も一緒に頑張って働きたい！



インドからの手紙

インドの子ども達の願いは、人間も動物もみんなが住みやすく、過ごしやすい環境になってほしい！ということ。この手紙からは、インドと日本の生活環境の違いも伝わってきます。

ゴミを放置しないよう、ゴミ捨て場をつくろう

ゴミの放置は、街の衛生上よくないと思います。誰もが安心して過ごせるきれいな街づくりにつなげたい！

都市から遠く離れた村にも病院や学校をつくろう

何時間も移動し、病院や学校に向かう人々があります。健康と教育の機会を平等に！

野生の動物を大切にしよう

街の中で人と共存する身近な犬や牛、そして、そのほかのさまざまな動物の命を守ろう！

日本からの手紙

日本の子どもは、今、自分が取り組んでいるSDGsのゴールと、そのゴールを達成するためのアイデアを表現してくれました。

取り組んでいるのはゴール6「安全な水とトイレを世界中に」

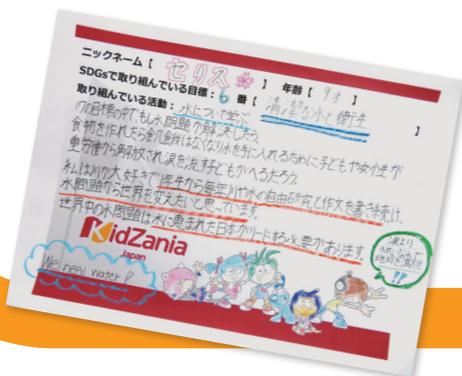
ゴール6から清潔な水と衛生を考え、水について学んでいます。

世界の水問題を解決することは、とても大切

きれいな水が簡単に手に入れば、重労働である水くみをしなくてよいし、食物も作れて飢餓がなくなるはず！

世界の水問題は、日本が取り組んでいこう

きれいな水に恵まれた日本がリードして、世界の水問題に取り組むべき！



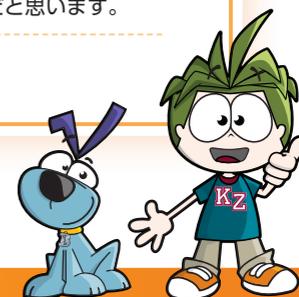
おわりに キツザニアが目指すSDGs

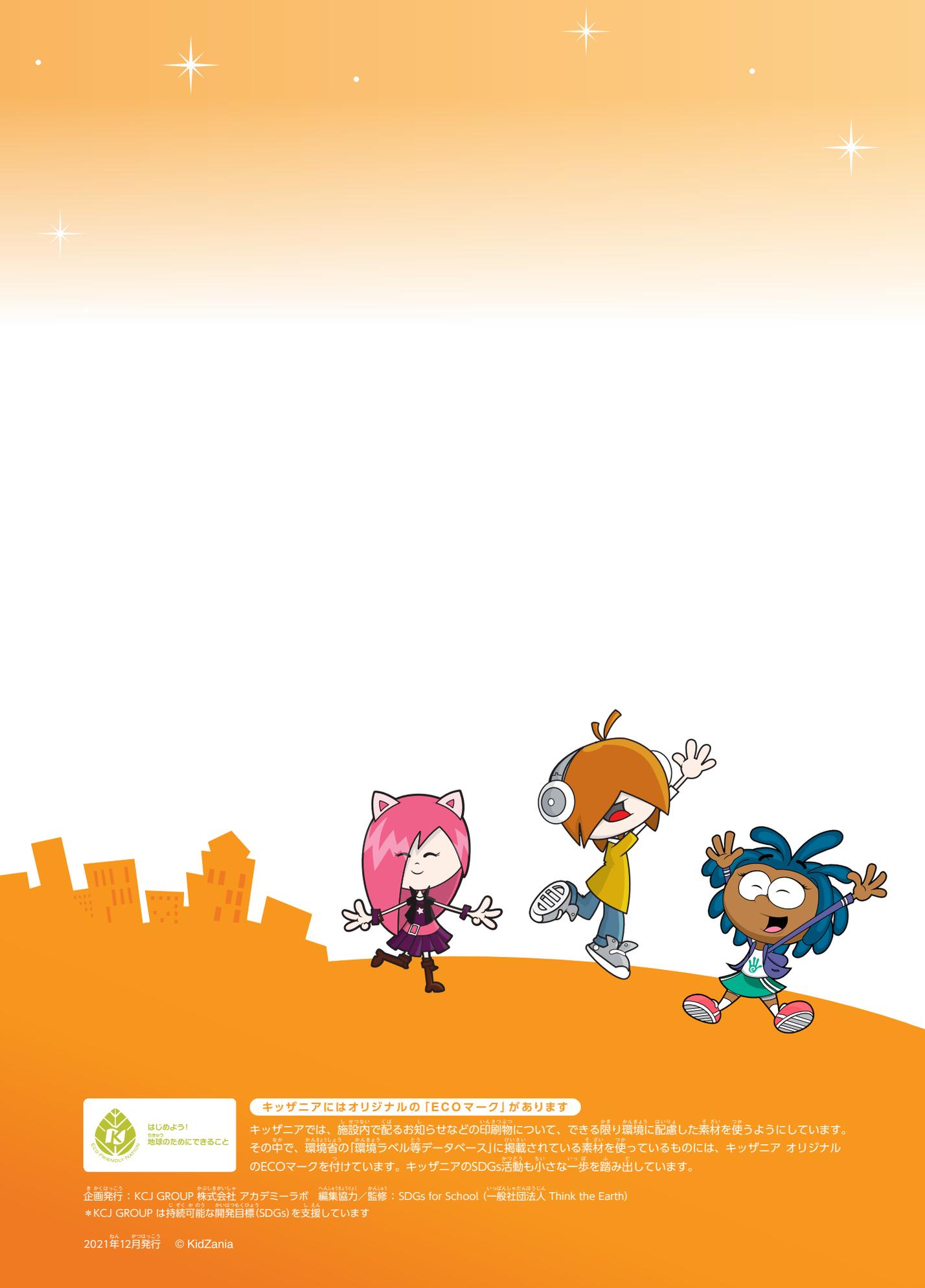
多くの人々が希望を見失っていた、ある時代のこと。「自分たちなら世の中をもっと楽しくできる!」、「もう待てない!」立ち上がったのは子ども達でした。子どもがいろいろな技術を学び、自分たちの意志で自由に行動できる場所があれば、世界はもっとよくなるはず。子ども達が集まり、思い描いた理想。それは、持続可能な世界を実現することでした。それがキツザニアという国の成り立ちです。

「もう待てない!」という子ども達の声は正解でした。今、世界は大きな変化の時を迎えています。その変化の中でも極端な気候の変動は明らかで、さまざまな調査をした結果、地球は限界に近づいていることがわかってきました。このような状況の中で、未来へ向けたシナリオがよりよい方向へ向かうよう、世界規模の目標が設定されました。その目標がSDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) です。待たずして達成へ向かうべき、私たちのゴールです。

このガイドは、その大切なゴールであるSDGsをよりよく知ってもらうために作られました。そのために、SDGsに関するキーワードや、現在の取り組みなどが紹介されていますので、SDGsを「知る」「対話する」、そして「行動する」きっかけとして使ってみてください。また、SDGsも万能とは限りません。もし足りない視点や含まれていない課題があると感じたら、必要だと思うゴールをつくってみませんか？

そして、実際に行動をしてみた上で「もっとこんなガイドがあったらいいな」と考える発想のタネを見つけたみなさんには、いつか「自分なりのSDGsガイド」を生み出してもらえることを期待しています。それぞれのオリジナルのガイド、それこそが、子どもが主役の国であるキツザニアの本当のSDGsガイドになるのだと思います。





キッズニアにはオリジナルの「ECOマーク」があります

キッズニアでは、施設内で記るお知らせなどの印刷物について、できる限り環境に配慮した素材を使うようにしています。その中で、環境省の「環境ラベル等データベース」に掲載されている素材を使っているものには、キッズニア オリジナルのECOマークを付けています。キッズニアのSDGs活動も小さな一歩を踏み出しています。

企画発行：KCJ GROUP 株式会社 アカデミーラボ 編集協力／監修：SDGs for School (一般社団法人 Think the Earth)

* KCJ GROUP は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています